

## 平成19年度 第1回 微生物農薬検討会 議事要旨

日 時： 平成19年10月26日（金） 14：00～16：30

場 所： 農林水産消費安全技術センター農薬検査部 小会議室

出 席： 青木、国見、島津、三瀬（座長） 各委員（五十音順）  
（事務局）農林水産消費安全技術センター農薬検査部

今回の微生物農薬検討会は、新規申請のバリオボラックス パラドクス（ネオキーパー）及びペキロマイセス テヌイペス（ゴッツA）並びに、前回検討したバチルス チューリンゲンシス アイザワイ（フローバック）に関する指摘事項への回答を議題として開催された。

### 議題1 バリオボラックス パラドクス（ネオキーパー）

- （1）事務局より、本剤については、当検討会で初めて審議を依頼するものであること及び提出された試験成績等資料の概要及び評価案が説明された。
- （2）提出された資料を検討した結果、特に問題はなく、評価案は了承された。

### 議題2 ペキロマイセス テヌイペス（ゴッツA）

- （1）事務局より、本剤については、当検討会で初めて審議を依頼するものであること及び提出された試験成績等資料の概要及び評価案が説明された。
- （2）オンシツツヤコバチ影響試験において、本微生物を成虫に直接暴露させていないことから、試験の再実施も含め、オンシツツヤコバチに対する影響について考察するよう指摘がなされた。
- （3）その他は問題なく、指摘事項を除き、評価案は了承された。

### 議題3 指摘事項への回答

#### バチルス チューリンゲンシス アイザワイ（フローバック）

（平成18年度第3回検討会指摘事項）

土壌微生物影響試験において、本微生物を土壌混和することに伴う土壌細菌の密度変化について考察することとの指摘に対し、事務局より、本微生物は、土壌中処理濃度が土着の細菌数（ $10^8$  CFU/g）より3桁少ない量であることから初期の土壌中の総細菌数に有意な変動がなかったこと、試験期間中においても対照区（無処理区）と比べ細菌数に有意な変動がなかったことから本微生物の影響は無かったものと考えられる等の説明があり、了承された。

### その他

次回は、平成20年2月に開催する予定とされた。